

## 今月のみことば 2018年5月

**「あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。」**

**(コリント人への手紙第一 6章9節)**

徳川四代将軍茶道師範を務めた片桐石州(貞昌)について、次のような話が伝わっている。

ある年のこと、江戸に出勤する途中、宿で尿器として使っている瓶を見て大変驚き、さっそく亭主を呼んでそれを洗わせたところ、果たしてそれは、中国の唐の時代の逸品であった。

それをしばらく見ていた石州は、主人を呼んで「これを自分に譲ってくれまいか。お礼に一分金五枚を出そう」と言った。

意外な成り行きに驚いた主人は「手前の不調法で、そのような貴重な品とはつゆ知らず、こんな不浄なものにしておりました。どうぞこの瓶はお納め下さい。お代は頂くわけにはまりません」と言うばかりであった。

ところが、石州は「いや、謝礼は謝礼だ、取っておけ。それでは、瓶は確かに譲り受けたぞ。いいな、亭主」。そう言ったかと思うと、石州は家来の一人に命じて、直ちにその瓶を庭石めがけて投げつけさせた。瓶は粉々に砕け散った。

「驚いたか、皆の者。あの瓶は素晴らしい唐の逸品、目がきく者が見れば、必ずや買い取り、水瓶として売れだそうもの。それを不浄のものとして使ったとはつゆ知らず、高価な値で買い取る者も出よう。それではあまりに汚らわしい。そこで自分が買い取り、処分したというわけじゃ」。

これを聞いた人々は、驚きから尊敬の思いへと変わった。

——『思齊謾録』(正木茂氏の引用による)

聖書によれば、私たち一人ひとは、神のかたちに似せて造られた尊い存在であって、神の栄光を表すはずの者である。確かに、その栄光の片鱗が多少残っているとはいえ、人の目に見えないところでは、どれほど悪いことを考え、また悪いことをしてしまうものであろうか。私たちもある意味では、尿器と変わるところがない。

キリストは、言われた。「人から出て来るもの、それが人を汚すのです。内側から、すなわち人の心の中から、悪い考えが出て来ます。淫らな行い、盗み、殺人、姦淫、貪欲、悪行、欺き、好色、ねたみ、ののしり、高慢、愚かさで、これらの悪は、みな内側から出て来て、人を汚すのです」(マルコの福音書 7:20~23)。

いったい、自分はこれらの罪と関係がない、と言い切れる人がいるだろうか。

しかし、憐れみ深い神は、罪悪に満ちて汚れ果てた器となった私たちを、キリストの血という高価な代償を払って買い取ろうと、罪なきキリストを私たちの身代わりに十字架の上で砕いてくださった。

かくして、キリストの義をいただいた者は神の国の相続者となることができるようにされたのである。

しかし、キリストを信じてこの義をいただくことなく、相変わらず罪と悪の中にとどまり続けるなら、神の国に入ることができないばかりか、裁きに遭うのは当然と言わなければならない。

